

## 不登校生徒の支援に関する研究

－メタバースを活用した実践を通して－

教育相談室 伊賀上 知 晴 矢 野 泰 慎 川 中 亜紀子  
 富 田 和 宏 藤 本 浩 平 酒 井 綾  
 長谷部 真由美 坪 田 朋 也

## 【要 約】

メタバースを活用した支援が不登校生徒にとって有効な手段であることを確認できた。今後は、メタサポキャンパスを利用する生徒の安心感を更に高められるように、他者とのつながりや学習についての支援を充実させていく必要があることを確認できた。

【キーワード】 不登校生徒支援 メタバース インターネット上の仮想空間

## 1 研究の目的

文部科学省が実施した「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果によると、中学校における不登校生徒数は増加し続けており、不登校生徒への支援は、生徒指導上の喫緊の課題の一つとなっている。また、同調査結果には、学校内外の専門機関等で相談や指導等を受けることができていない不登校生徒は77,571人と示されており、不登校生徒193,936人のうち、約40%の不登校生徒が学び等にアクセスできていない状況が確認できる。こうした現状を踏まえて、文部科学省は、令和5年3月31日に、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策として「COCOLOプラン」を取りまとめた。同プランには、「児童生徒が不登校になった場合でも、小・中・高等学校等を通じて、学びたいと思った際に多様な学びにつながるができるよう、不登校児童生徒の個々のニーズに応じた受け皿を整備する」ことが重要であると示されている。

愛媛県教育委員会では、こうした現状を踏まえて、本センターに令和5年4月1日から愛媛県教育支援センター（以下「教育支援センター」という。）を設置し、不登校児童生徒等が他者とのつながりや学習の機会を持つことができるように、インターネット上の仮想空間（以下「メタバース」という。）を活用した支援を開始した。メタバースを活用した支援は、ゲーム感覚での参加が可能で、学び等にアクセスしやすいことに利点がある。メタバースを活用した支援によって、不登校生徒が現状から一歩踏み出して、他者とのつながりや学習の機会を持ち、社会的自立に向かうことができるのではないかと考え、本研究に取り組むこととした。

## 2 研究の内容

## (1) メタバースを活用した支援の概要

## ア 支援の目的

メタバース上の学びの場であるメタサポキャンパスを開設し、担当スタッフの巡回等により、不登校生徒への「つながり」を作り、個々の状況に応じた学習の機会を保障し、社会的自立に向けた支援の充実を図る。

## イ 使用アプリ

株式会社ガイアリンクが提供するメタバース「ガイアタウン」を使用することとした。「ガイアタウン」の3D空間は、より現実空間を近くに感じられる仕様となっており、利用する生徒が、自身の分身であるアバターを、3D空間の中でリアリティーを持って自由に動かすことができる。また、学習動画の視聴や他のアバターとの会話、共同作業が可能であるなど、他者とのつながりを持って、多様な活動に楽しみながら参加できることも、本メタバースの特徴である。

## ウ 対象生徒

次の2点に該当する生徒を対象とした。

- 県内の中学校に在籍する生徒
- 在籍校がメタバース上の学びの場による支援が適当であると判断した生徒

なお、定員は60人程度としており、メタサポキャンパスへの同時入室は30人である。

### エ メタサポキャンパス運用計画

本年度のメタサポキャンパス運用計画は、表1のとおりである。1学期は、教育支援センターの担当スタッフ2人で支援を行っていたが、9月1日から、大学生サポーターがボランティアとして支援に加わった。また、1学期は、利用している生徒が入室後にどのようなことをしたらよいか捉えにくい状況があったので、基本となる時間割を設定し、9月1日に運用を開始した(表2)。

学習活動については、1学期は、担当スタッフが生徒の学習に関する興味・関心について個別に聞き取りをしたり、学習に対する不安について相談に乗ったりするなど、学習状況の把握を行った。2学期以降は、NPO法人eboard(イーボード)が開発・運営するICT教材「eboard」の活用や大学生サポーターによる学習相談を実施するなど、生徒が意欲的に学習に取り組むことができるよう支援内容を拡大した。また、昭和女子大学准教授の森秀樹氏によるワークショップを設定し、プログラミング教材である「scratch(スクラッチ)」を用いた活動を実施した。

表1 メタサポキャンパス運用計画の概要

月	内容
4～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設に向けた諸準備</li> <li>・1学期支援内容の検討</li> <li>・サポートルーム設置校、生徒、保護者への周知</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試行運用開始(6月15日)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期開始(7月3日)</li> <li>・生徒在籍校との連携</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期運用の検証</li> <li>・2学期支援内容の検討</li> </ul>
9～11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期開始(9月1日)</li> <li>・基本時間割の運用(9月1日から)</li> <li>・ICT教材「eboard」活用(9月1日から)</li> <li>・大学生サポーター参加(9月1日から)</li> <li>・昭和女子大学准教授森秀樹氏によるワークショップ(10月20日及び11月24日)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒在籍校との連携</li> <li>・2学期運用の検証</li> <li>・3学期支援内容の検討</li> </ul>
1～3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期開始(1月上旬)</li> <li>・生徒在籍校との連携</li> <li>・教育支援教室「こまどり教室」との交流</li> <li>・昭和女子大学准教授森秀樹氏によるワークショップ(1月から3月の各月)</li> <li>・3学期運用の検証</li> <li>・次年度年間運用計画の検討</li> </ul>

なお、メタサポキャンパス利用が可能な日については、本センターホームページに詳細を掲載し、利用生徒、保護者等に周知した。生徒が入室できる時間は、9時から16時までである。

表2 基本の時間割

時間(午前)	内容	時間(午後)	内容
9:00～10:00	フリータイム	13:00～13:30	スタートタイム
10:00～10:30	スタートタイム	13:30～14:30	チャレンジタイム
10:30～11:30	チャレンジタイム	14:30～15:00	イベントタイム
11:30～12:00	イベントタイム	15:00～16:00	フリータイム

時間割内の内容について、フリータイムは、生徒が自由にキャンパス内の各ルームを行き来するなどして、活動の準備や他者との会話を楽しむ時間として設定した。スタートタイムは、スケジュールや担当スタッフからの連絡事項を確認する時間として設定した。チャレンジタイムは、生徒が準備した自主学習用の教材やICT教材「eboard」等に取り組む時間として設定した。なお、この時間は、担当スタッフや大学生サポーターに学習について相談することができるようにした。イベントタイムは、他者とのつながりを感じられるようなイベントを実施する時間として設定した。

#### オ メタサポキャンパス内の活動

生徒の学習や活動の場として、メタサポキャンパス内に以下のルームを設定した。

##### (ア) グリーティングルーム

担当スタッフ在室日の10時と13時に、健康観察、活動内容の確認、担当スタッフによる簡単なレクリエーション等を行う部屋である。

##### (イ) クラスルーム

以下のルームをまとめてクラスルームとして設定した。

- スタディルーム（学習動画を活用して生徒が自主学習を行う。）
- フレンドルーム（共通のテーマに基づいて交流活動を行う。）
- リサーチルーム（動画等を活用して調べ学習を行う。）
- スポーツルーム（スポーツに関する動画視聴や無料エリアを使ったスポーツ交流を行う。）
- アドバイスルーム（担当スタッフによる週1回程度の教育相談を行う。）

##### (ウ) フリースペース

他の利用生徒や担当スタッフと交流活動を行う部屋である。担当スタッフによる自由参加型のイベントの開催もフリースペースで行う。

#### カ 対象生徒在籍校との連携

各学期末に担当スタッフが生徒の在籍校と連携し、メタサポキャンパス内での生徒一人一人の活動状況や支援状況についての共通理解を図った。

##### (2) メタバースを活用した支援内容の検討

メタサポキャンパス入室後の生徒の状態を以下の三つの段階に区分して支援内容を検討した。

###### ○第1段階

メタサポキャンパスに初めて入室する際などの生徒の緊張感が高い段階。

###### ○第2段階

メタサポキャンパスでの活動に慣れ、担当スタッフと安心感を持って交流できる段階。

###### ○第3段階

メタサポキャンパスに安心感を持って入室し、担当スタッフや他の生徒と交流できる段階。

#### ア 他者とのつながりに関する支援

##### (ア) 第1段階

この段階での支援目標は、生徒が安心感を持ってメタサポキャンパスに入室し、担当スタッフと信頼関係を構築することである。

生徒との信頼関係を構築するために、担当スタッフは、チャット等でのやり取りの中で、生徒の話を受容的、共感的に傾聴し、肯定的な働き掛けを行うこととした。

##### (イ) 第2段階

この段階での支援目標は、生徒がメタサポキャンパスへの所属感を持って、自分のペースで安心して入室できるようにすることである。

第1段階の支援を継続しながら、生徒が担当スタッフとの関わりを通して、また参加したいと感じられるようなイベントを、週2回のペースで実施することとした。その際、メタバース内でも活用できる構成的グループ・エンカウンター（以下「SGE」という。）のエクササイズを取り入れることとした。

なお、週2回のイベントの内容を計画する際、可能な範囲で生徒の意見を聞き、実際の活動内容に反映させたり、イベント終了後に集合写真を撮影し、メタサポキャンパス内にその写真を掲載したりすることで、生徒がメタサポキャンパスに所属感を持てるようにすることとした。

#### (ウ) 第3段階

この段階での支援目標は、担当スタッフや他の生徒との関わりを通して、生徒が、他者と交流する楽しさを感じられるようにすることである。

担当スタッフは、生徒同士が自らきずなを紡いでいけるようなイベントを設定することとした。その際、それまでの交流で担当スタッフが把握した生徒のニーズに基づいてイベントを企画し、生徒が協働してイベントを運営するなど、生徒間のつながりをより深められるようなイベントも企画した。

### イ 学習に関する支援

#### (ア) 第1段階

この段階での支援目標は、生徒が学習に興味を持つことができるようにすることである。アドバイスルームでの教育相談等を通して、生徒から学習に関して興味・関心のあることを聞き取り、担当スタッフから働き掛けを行うこととした。

#### (イ) 第2段階

この段階での支援目標は、生徒が学習動画を視聴するなどして、自主的に学習に取り組むことができるようにすることである。そのため、スタディルームには、ICT教材「eboard」を配置して、学習動画を自由に閲覧できるようにすることとした。

#### (ウ) 第3段階

この段階での支援目標は、生徒が学習に関して困っていること等を担当スタッフに伝え、その解決方法を一緒に考えることができるようにすることや、アドバイスルームにおける教育相談等を通して、学習の進め方を身に付けることができるようにすることである。

### (3) メタバースを活用した支援の取組

#### ア 他者とのつながりに関する支援

第1段階及び第2段階の生徒の支援を中心に取り組んだ。入室した生徒との関わりにおいては、アバターを介したやり取りが中心であるため、生徒の実際の表情、声の調子、行動を読み取ることが難しい。担当スタッフは、入室した生徒に、チャットやリアクション機能を使って働き掛けを行い、生徒の反応を観察しながら支援を行った。なお、チャットでやり取りをする際は、絵文字を用いて、文章でのやり取りに温かさが感じられるように配慮した。

9月からは、大学生サポーターが支援に加わり、担当スタッフに限定せず、多様な他者との温かい交流がなされるように支援を行った。

### イ 学習に関する支援

第1段階及び第2段階の生徒の支援を中心に取り組んだ。1学期は、利用生徒から学習に関する興味についての聞き取りを行った。また、「えひめ学習動画プラットフォーム」を活用して、生徒の学習を支援した。2学期は、ICT教材「eboard」を活用した学習支援を行った。「eboard」は、映像授業とデジタルドリルを組み合わせた教材であり、学習に対する苦手意識が高い場合も、基礎から自分のペースで学ぶことができる利点がある。学校での学びから遠ざかっている生徒にとっては、無理なく学びにつながるることができるツールであるため、各自のペースで学習に取り組む生徒の姿が見受けられた。また、10月と11月には、昭和女子大学准教授森秀樹氏によるワークショップも実施した。ワークショップでは、プログラミング教材「scratch（スクラッチ）」を用いて、挨拶をするプログラムや顔認証を行うプログラムづくりに取り組んだ。生徒が作成したプログラムは、メタバース上で画面共有を行い、それぞれに紹介し合うなど、学習を通じた生徒同士の交流も行った。

### (4) 取組の検証及び考察

#### ア 生徒の参加状況

6月15日の試行運用から12月31日までの、各月の入室者数及び開室日1日当たりの平均入室者数の

推移は、以下の図1、2のとおりである。

各月の入室者数の推移を見ると、1学期は、運用開始間もないこともあり、入室者数は、2学期後半に比べて少ない状況にあった。9月以降、登録者数の増加に伴って入室者が急増している。開室日1日当たりの平均入室者の推移では、9月に1日当たり1.1人であった入室者が、11月以降には、4.4人に増加している。

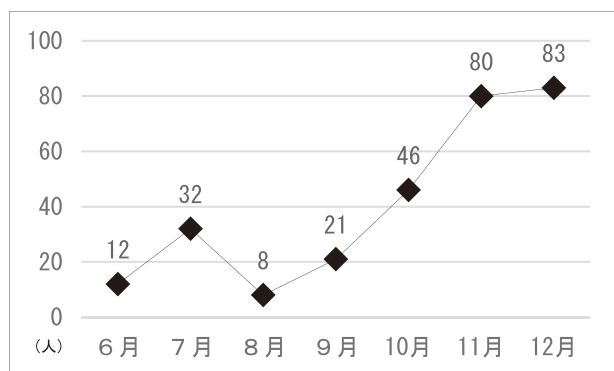


図1 各月の入室者数（中学生のみ）

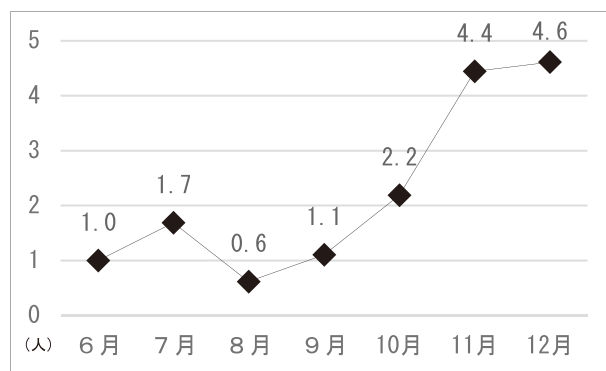


図2 平均入室者数（中学生のみ）

### イ 他者とのつながりに関する支援

メタサポキャンパス内でのコミュニケーションの方法は、主に、チャットと音声の二つである。図3は、担当スタッフが見取った6月から12月までの生徒のコミュニケーション方法をまとめたものである。なお、1日の間に、チャット、音声の両方でコミュニケーションを図った場合は、それぞれ1回ずつカウントしている。

図3を見ると、9月までは、メタサポキャンパス内でのコミュニケーション方法の主流はチャットであった。10月以降は、チャットと音声の割合に逆転が見られた。音声によるやり取りは、チャットによるやり取りに比べて、相手や場に対する安心感や信頼感の必要性が高くなるコミュニケーションの方法である。利用生徒は、週2回のイベントや担当スタッフ、大学生サポーターとの関わりを通して、メタサポキャンパス内で活動の中で安心感や信頼感を培ったと考えられる。

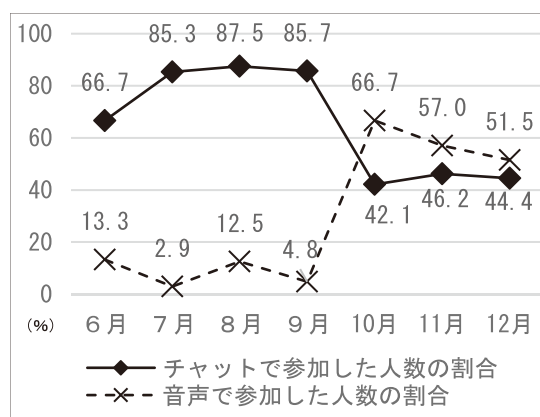


図3 コミュニケーション方法の割合

### ウ 学習に関する支援

図4は、担当スタッフが見取った、6月から12月までの生徒の学習状況をまとめたものである。えひめ学習動画ライブラリ、「eboard」を用いた学習だけでなく、担当スタッフがチャット等で呼び掛けた際、問題集等に取り組んでいた生徒についてもその都度カウントしている。

6月の施行運用時に6.7%であった割合が、11月には、71.0%に増加している。このように大きく数値が伸びたのは、学習に関するコンテンツの拡大、担当スタッフ及び学生サポーターの支援の充実、大学教授によるオンラインワークショップの実施等の取組が影響していると考えられる。

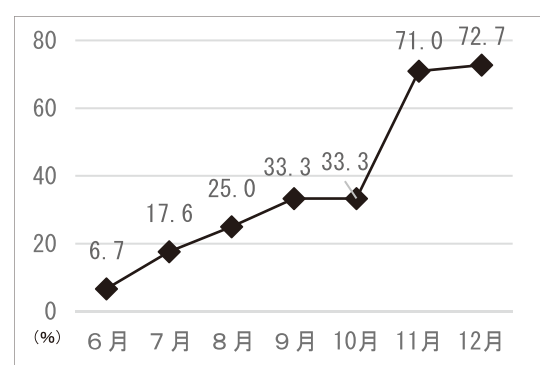


図4 学習した生徒の割合

### エ アンケート調査

メタサポキャンパス利用生徒を対象にアンケート調査を行った。実施期間は、12月18日から12月25日までの2週間とした。この期間中に回答した生徒は9人である。



以下の図5は、「あなたにとって、メタサポキャンパスの良いところは何ですか」（複数選択可）の質問に対する回答結果である。



図5 アンケート集計結果

「自宅から参加できる」「利用時間や活動内容など、自分のペースで利用できる」「スクリーンや掲示物による情報発信がたくさんある」といった利用のしやすさに関する項目を選択した生徒の割合が高かった。次いで、「チャットで気軽に会話ができる」「いろいろな人（担当スタッフ、大学生サポーター）がいる」「担当スタッフとの何気ない『おしゃべり』がある」といった他者とのつながりに関する項目を選択した割合も5割程度あった。

一方、「自分のことをほめてもらえたり、認めてもらえたりする」「自分の思いを聴いてくれる人がいる」「自分らしくいられる」といった自己を認めてもらい、自分らしさを出すことができているかどうかについての項目や、「学習コンテンツを使って自主学習ができる」といった学習に関する項目の割合が、他の項目に比べて低かった。

アンケート集計結果を見ると、利用のしやすさ、他者とのつながりについての評価は、おおむね肯定的であると捉えられる。自己を認めてもらい、自分らしさを出すことができているかどうかや学習については2～3割程度であり、今後、更なる支援の充実が求められる。自己を認めてもらい、自分らしさを出すことに関しては、メタサポキャンパス内での生徒の取組について、できていることや挑戦していることについて、これまで以上に生徒に声を掛けて、褒めたり、ねぎらったりするなど、コンプレメントを行うことが求められていることが分かった。また、学習に関しても、生徒の声を聞きながら、ニーズに合わせたコンテンツの充実や声掛け等の支援が必要である。

### 3 研究のまとめと今後の課題

不登校の状態にある生徒が、現状から一步踏み出して、他者とのつながりや学習の機会を持つことができるよう、メタバースを活用した支援を実施した結果、本年度は、メタバースを活用した支援が生徒にとって他者とのつながりを持つことに有効な手段であることを確認できた。今後は、利用生徒が自己を認めてもらい、自分らしさを出すことができているかどうかや学習とのつながりを持たせることができているかどうかについて、特に、第2段階から第3段階の支援内容や方法を検討していきたい。

#### 主な参考文献

- 文部科学省「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」2023
- 文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」2023